

●平成5年度

平成5年度についてはハマフエフキ、スジアラともに中間育成開始当初から渡嘉敷漁協で実施したが、スジアラについては8月下旬に細菌性感染症が発生し、大量幣死したため歩留まりが悪かった。なお、5年度は生簀内への魚礁設置は実施しなかった。

平成2年度から5年度までの中間育成結果については表-26、27に示した。

②種苗放流

●平成3年度

平成3年度の種苗放流は放流海域の状況からみて食害生物（大型ヒラアジ類、大型ハマフエフキ、幼類）が多いことが予想されたため、当才魚と一才魚を用い3種のサイズで実施した。またそれぞれの放流群で音響馴致期間は異なる。

・'91.11.5 当才魚 815尾(体長範囲 89-134mm<図-37>、音響馴致期間:60日、標識:左腹抜去)  
放流方法:渡嘉敷漁協で中間育成したものを活魚船に積み込み給餌ブイへ運搬し、現地で小割生簀に移し一斉放流した。

・'92.1.22 1才魚 428尾(体長範囲 215-384mm<図-38>、音響馴致期間:76日、標識:右腹鰭抜去)

放流方法:渡嘉敷漁協で中間育成したものを活魚船に積み込み給餌ブイへ運搬し、現地で活魚槽からタモで2-3尾ずつ放流した。

・'92.3.31 当才魚 825尾(体長範囲 120-190mm<図-39>、音響馴致期間:176日、標識:左腹鰭抜去)

放流方法:渡嘉敷漁協で中間育成したものを活魚船に積み込み給餌ブイへ運搬し、現地で活魚槽からタモで2-3尾ずつ放流した。

●平成4年度

1)ハマフエフキ

・'92.12.17 2,422尾(体長範囲 105-162mm<図-40>、音響馴致期間:36日、標識:右腹鰭抜去)

放流方法:渡嘉敷港で中間育成したものを活魚船に積み込み給餌ブイへ運搬し、現地で活魚槽からタモで2-3尾ずつ放流した。

2)スジアラ

・'92.12.17 180尾(体長範囲 97-116mm<図-41>、音響馴致期間:36日、標識:右腹鰭抜去)

放流方法:ハマフエフキとともに活魚船に積み込み給餌ブイへ運搬し、同様に放流した。

●平成5年度

平成5年度もハマフエフキとスジアラの種苗放流を実施した。刺網による食害生物の排除も前年同様実施した。

1)ハマフエフキ

・'93.11.11 2,009尾(体長範囲 106-144mm<図-42>、音響馴致期間:30日、標識:左腹鰭抜去)

放流方法:渡嘉敷港で中間育成したものを活魚船に積み込み給餌ブイへ運搬し、現地で活魚槽からタモで2-3尾ずつ放流した。

2)スジアラ

・'93.11.11 90尾(体長範囲 83-108mm<図-43>、音響馴致期間:30日、標識:左腹鰭抜去)

放流方法:ハマフエフキとともに活魚船に積み込み給餌ブイへ運搬し、同様に放流した。

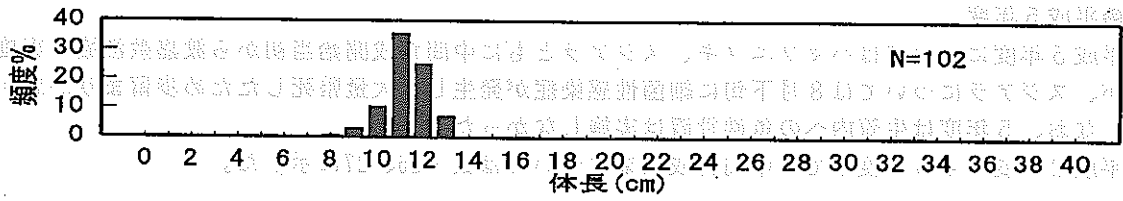


図-37 放流魚体長組成 (ハマフエフキ; 91/11/5 放流群)

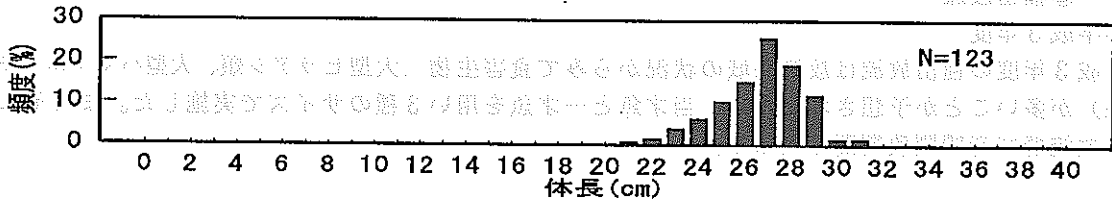


図-38 放流魚体長組成 (ハマフエフキ; 92/1/22 放流群)

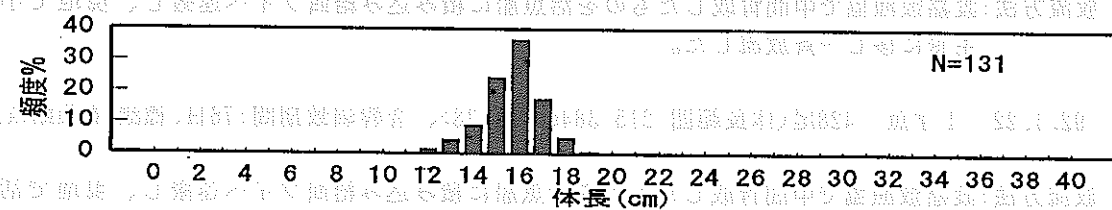


図-39 放流魚体長組成 (ハマフエフキ; 92/3/31 放流群)

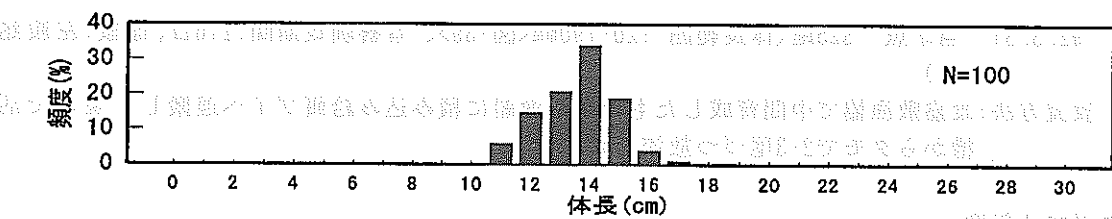


図-40 放流魚体長組成 (ハマフエフキ; 92/12/17 放流群)

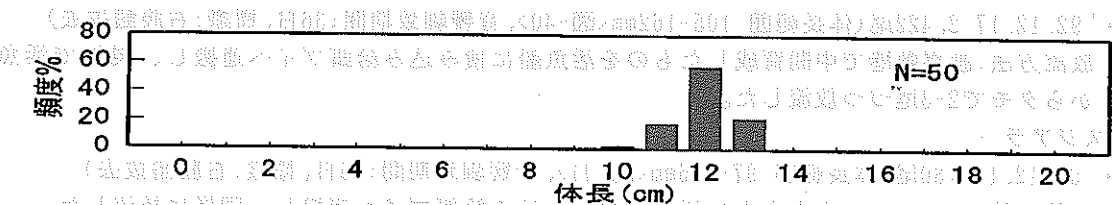


図-41 放流魚体長組成 (スジアラ; 92/12/17 放流群)

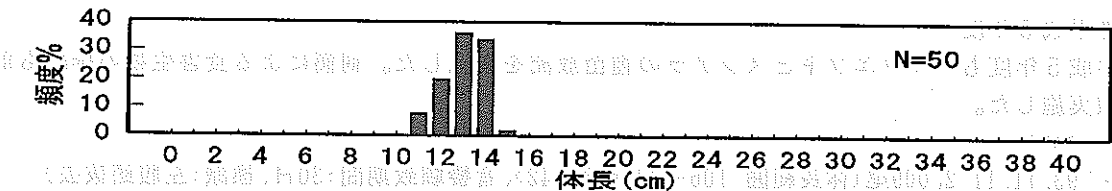


図-42 放流魚体長組成 (ハマフエフキ; 93/11/11 放流群)

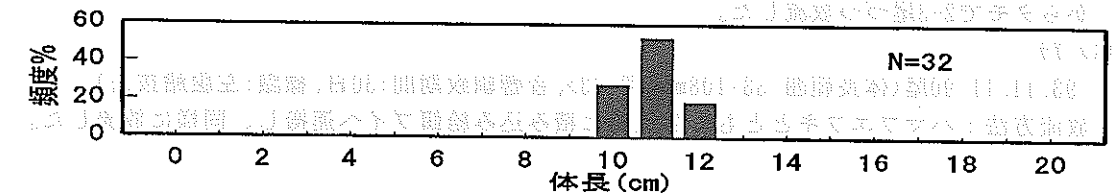


図-43 放流魚体長組成 (スジアラ; 92/11/11 放流群)